

令和7年4月17日に、本校3年生182名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果をまとめました。本調査は、国語、数学、理科3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国 語 科 よ り

調査結果としては全国平均と同等の数値でした。

記述式問題では強みが見られます。例えば「美術展の工夫について書く」問題や「スライドを使った話し方」では全国を上回り、根拠を示して自分の考えをまとめる力や資料活用の理解に優れています。また、聞き手の反応を踏まえた発言理由を問う問題でも全国平均よりも高く、話す・聞く領域での力が安定しています。

一方、漢字の修正問題、語彙理解といった、基礎的な知識で全国平均よりも低い結果となりました。さらに、短答式問題全般の平均は全国平均を5.5%下回り、理由や根拠を簡潔に示す力に少し課題があるようです。今後は、語彙・漢字などの基礎力を強化し、短答式での根拠表現の練習を重ねることで、記述力と基礎力の両面を伸ばし、総合的な国語力の向上を目指していきましょう。

数 学 科 よ り

調査結果としては全国平均をやや上回る数値でした。

「グラフから情報を読み取る」問題では、全国平均を8.3%と大きく上回り、データ活用や実生活に結びつく数学の力が高いことが分かります。また、「確率の基本」や「素数の意味」といった、基礎概念や統計・確率分野で全国平均を超えています。

一方、課題としては「一次関数の変化の割合をもとに増加量を求める問題」や「式の意味を説明する記述」など、考え方を言語化する問題で全国平均を下回っています。証明問題でも差は小さいものの無解答率が高く、論理的な説明力に課題があるようです。強みであるデータ活用をさらに伸ばしつつ、一次関数や証明問題で「理由づけを言葉で表す」練習を重ね、思考過程を明確に示す力をつけていきましょう。

理 科 よ り

理科は、タブレットを使って決められた手順に従い生徒がオンライン画面上で問題に回答する、CBT（Computer Based Testing）調査というオンライン形式で実施されました。調査結果としては全国平均をやや下回る数値でした。

強みとして、観察やスケッチを基にした問題で全国平均を上回っています。例えば「植物スケッチの技能理解」、「サクユリの構造同定」といった、視覚情報から特徴を読み取り、構造を判断する力が育っています。また、「仮説が正しい場合の結果予想（電気回路）」などの、物理分野で仮説に基づく予想を立てる力も比較的良好でした。

一方、基礎知識とモデル化に課題が見られます。「塩素の元素記号を答える」問題では全国平均を下回る数値となり、元素記号や化学式などの基礎語彙の定着が求められます。また、「水生生物の呼吸判定」や「粒子モデルで化学変化を表現する」問題など、概念理解とモデル操作を伴う問題で全国平均を下回っていました。実験や観察の場面で、仮説→計画→実験→考察→振り返りの探究プロセスを大切にしながら取り組んでいきましょう。

生 徒 質 問 紙 か ら

【生活習慣と学校生活】

基本的な生活習慣が比較的整っています。「朝食を毎日食べる」割合は全国平均を上回り、健康的な生活リズムが確保されています。一方、「毎日同じ時刻に寝る」は全国平均より低く、就寝習慣の安定には課題があります。また、「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は全国平均より高く、学校生活への適応感は良好です。「友達関係に満足している」も全国平均を上回り、人間関係の質が学習意欲を支えています。

【学習習慣と学び方】

平日の家庭学習時間は「30分未満」が34.4%（全国35.9%）、「全くしない」が33.9%（全国30.3%）で、学習時間はやや短めです。ICT活用では「ほぼ毎日授業で使用」36.1%（全国29.5%）と高く、端末活用の経験は豊富ですが、家庭での学習目的利用は低めです。「自分で学び方を工夫できる」が31.7%（全国27.4%）と、主体的な学びの姿勢は良好です。

保 護 者 の 皆 様 へ

全国学力調査は、子どもたちの学習状況を知ること、それぞれの次の課題を見つけ、子どもたちの可能性を更に伸ばしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果にも、ご家庭での子どもに対する積極的な関りやご指導・ご支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をよろしくお願いいたします。